

＜第8回「第2のふるさとづくりプロジェクト」に関する有識者会議＞
採択事業者説明資料

令和6年3月14日(木)

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

① 信達地方の蚕の糸が結ぶ文化と人～シルクロードが導く新たなふるさとづくり～

取組地域：福島県福島市ほか

登壇者：福島市フルーツラインエリア観光推進協議会 中山高行氏

P2～12

② 「地域に何度も通う旅・帰る旅」を持続可能かつ再現性高く、 広域エリアに浸透させるためのビジネスモデル構築事業in 雪国観光圏

取組地域：新潟県南魚沼市ほか

登壇者：株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター 北嶋緒里恵氏

P13～36

③ 地域課題で繋がる「しんせき学び旅プログラム」。バスのサブスクでより身近に、より通いやすく。

取組地域：兵庫県新温泉町

登壇者：全但バス株式会社 小坂祐司氏

P37～46

信達地方の蚕の糸が結ぶ文化と人 ～シルクロードが導く新たなふるさとづくり～

※信達地方

福島市の旧信夫郡と
旧伊達郡にまたがる
阿武隈川沿いの地域



令和6年3月14日

福島市フルーツラインエリア観光推進協議会

福島市フルーツラインエリア観光推進協議会とは

【団体概要】

福島市内の個人、団体、事業者等が協力連携し、フルーツラインエリアの観光振興・発展及び地域住民の生活の向上に寄与することを目的として2021年6月に設立。



〈構成員〉

- (株)ファーマーズ・フォレスト福島支店
- 飯坂温泉観光協会
- NPO法人土湯温泉観光協会
- 高湯温泉観光協会
- 万世大路を守る会
- NPO法人いいざかさサポートーズクラブ
- など

〈検証する仮説〉

養蚕や織物といった地場産業を学ぶことをテーマにした体験ツアー、技術習得プランを造成・提供することで、短期～長期滞在を促すとともに、再来訪イベントを開催することで、何度も訪問していただく仕組みができ、地場産業の継承及び交流人口の拡大につながるのではないかと。

〈取組概要〉

本事業では、これまで観光の切り口として着目されていなかった地域に根付く「養蚕」と「織物」のもつ特性を活かし、新たな地場産業の継承および交流人口の受け入れの仕組みづくりに向け、以下の取組を行った。

- (1) 旅マエにおけるターゲットを絞った広報
- (2) 目的ごとの短期～中長期滞在プランの提供
- (3) 旅ナカにおける地域住民との交流促進
- (4) 旅アトにおける再来訪の仕掛けづくり
- (5) 地元の次世代に対する普及・啓発活動

〈実施体制〉

福島市フルーツラインエリア
観光推進協議会／福島市／
(一社)福島市観光コンベン
ション協会DMO／工房おり
をり／(株)ファーマーズ・フォ
レスト福島支店／福島学院
大学／東和地域グリーンツ
ーリズム推進協議会／郡山
中央交通(株)など

(2) 目的ごとの短期～中長期滞在プランの提供

①ふくしまシルクロードツアー～蚕の幼虫編／繭づくり編～

ツアー概要:養蚕から糸づくり、織物までの一貫した流れを見学・体験し、地場産業に触れるツアー

ターゲット:30～40代、60代以上の女性

滞在日数:1泊2日(4回)

定員:10名/回

参加実績:20名

(初来訪者19名、再来訪者1名※昨年度参加者1名)



②ふくしまシルクロードツアー～学生合宿版～

ツアー概要:地場産業に触れるだけでなく、工房での制作体験を組み込んだツアー

ターゲット:服飾関係の学生

滞在日数:2泊3日(2回)

定員:3～4名/回

参加実績:6名(初来訪者6名、再来訪者0名)



③ふくしまシルクロードツアー～プライベートな織物教室編～

ツアー概要:織物の指導を受けながら制作体験をすることを目的としたツアー

ターゲット:30～40代、60代以上の女性

滞在日数:3泊4日(2回)、6泊7日(1回)

定員:3名/回

参加実績:7名(初来訪者1名、再来訪者6名
※昨年度2名、今年度参加者4名)



※ツアーの参加者は、福島県(市外)、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、宮城県、山形県から参加

(3)旅ナカにおける地域住民との交流促進

①ふくしまシルクロードツアー～蚕の幼虫編／繭づくり編～
交流促進の仕掛け：農家民泊

【効果】

- ・生活感(地域性)を感じられる
- ・再来訪目的となる
- ・地元の食文化に触れられる など



②ふくしまシルクロードツアー～学生合宿版～
交流促進の仕掛け：工房の近隣住民との交流

【効果】

- ・地域の技術・伝統の継承
- ・地域住民の活性化
- ・受け入れ環境の向上 など



③ふくしまシルクロードツアー～プライベートな織物教室編～
交流促進の仕掛け：移住定住団体による街歩き、養蚕農家の作業体験

【効果】

- ・地元事業者との接点になる
- ・特別な体験の提供
- ・地元事業者の活性化など



(4)旅アトにおける再来訪の仕組みづくり



(4)旅アトにおける再来訪の仕組みづくり

再来訪イベントの仕掛け

- ・地域内の関連事業者の招集
- ・制作物を展示することができる(参加者の制作物を展示)
- ・ツアー参加者等もスタッフとして参加できる受け入れ態勢
- ・年に1回程度の開催(予定)
- ・地元の方にも来ていただくイベントとする
- ・地域の文化に根付いたイベントのためメディア受けが良い

【効果】

- ・イベントへの**再来訪の主目的**としては、**応援したいから(40%)**、関係者に会いたいから(20%)、知識や技術を得たいから(10%)、仕事に関係があるから(10%)、その他(20%)であった。
- ・「養蚕」や「織物」を切り口とした**観光による波及効果について、良い影響がある**と思ったという回答は、93%であった。(※上記アンケート結果は、来場者への無作為のサンプリング調査による)
- ・イベント来場者数目標の**3,000名の達成**
- ・全国放送ではないものの地元新聞社やテレビ局の生中継など**数多くのメディアへの掲載・放送**
- ・宮城県や山形県から関連事業者も来場し、今後福島と連携していきたいとの申し出があった
- ・これまで**本事業の取組に関わりのなかった飯坂温泉内の事業者**や伝統芸能グループとの連携



自治体との関わり方

【関係自治体】

・福島市 ・川俣町 ・二本松市 ・伊達市

【関わり方】

福島市)

- ・観光交流推進室⇒本事業の広報やイベント会場の調整支援等
- ・定住交流課⇒受け入れ事業者との別事業が展開 ※体験移住の受け入れや宿泊費の補助対象宿泊施設として登録
- ・文化振興課⇒イベント時の展示資料の貸し出し
- ・長寿福祉課⇒出前講座の広報活動支援

福島市内の自治体関係機関)

- ・道の駅ふくしま(公設民営)⇒イベントへの備品貸し出し、広報活動支援、養蚕の副産物を活用した商品販売
- ・福島市観光コンベンション協会⇒広報活動支援、事業支援

川俣町)

- ・道の駅かわまたシルクピア内のおりもの館からの展示物借用支援

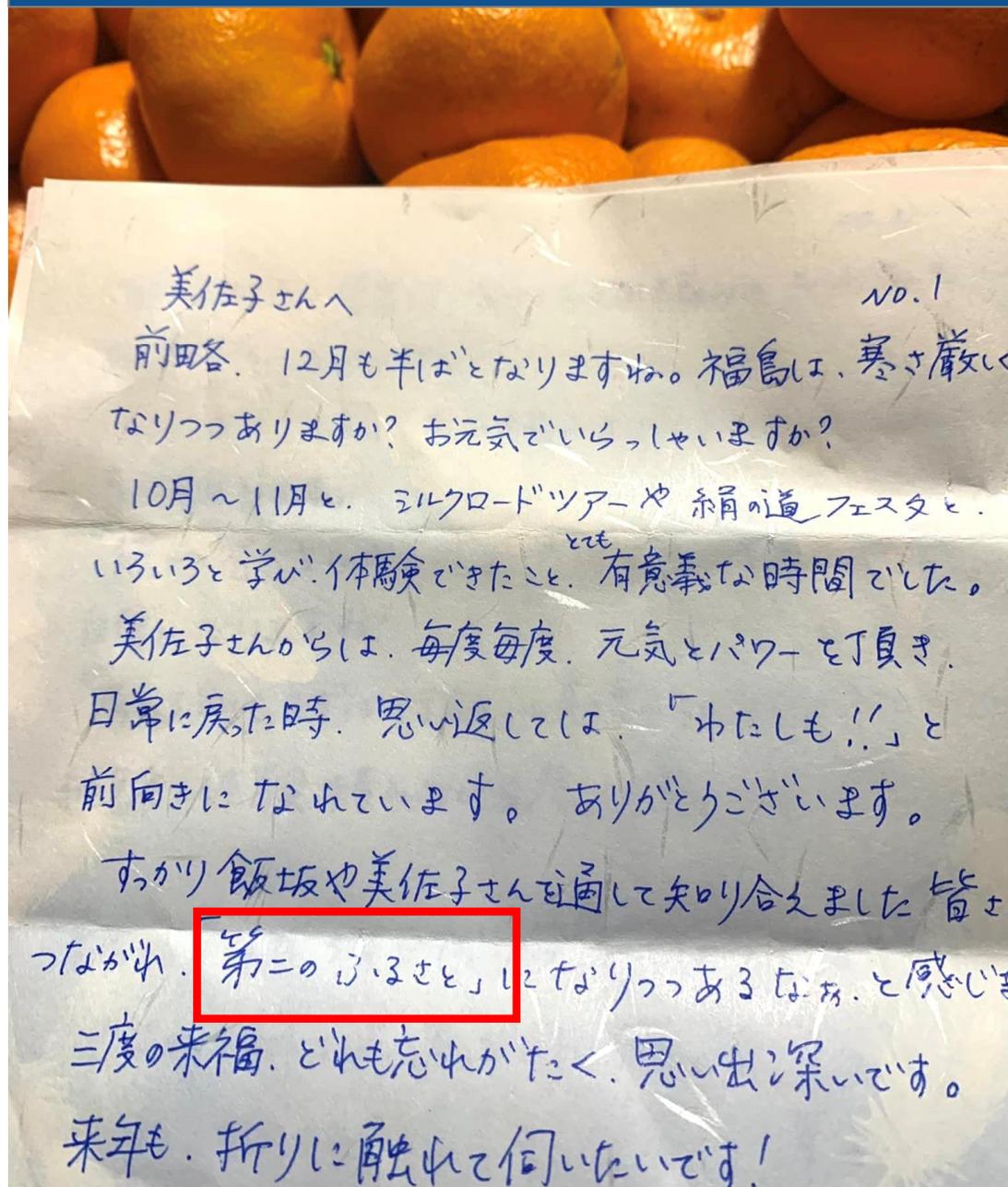
二本松市)

- ・農家民宿事業者より提供された地域に残る養蚕に関する神楽「まゆ祭り」に関する資料提供

伊達市)

- ・養蚕のドキュメンタリー番組制作で教育委員会に協力を得た(昨年度の事業内)

参加者から受け入れ事業者へのお便り



取り組みの成果)

対象地域の拡大や参画事業者の増加、受け入れ環境整備のための関係者向けの研修、再来訪イベントの開催等新たな取り組みを行うことで、地元メディアにとり挙げられるなど、**地域内外から注目を浴びるようになった。**

また、ツアーやイベントで再来訪者の参加実績を得ることができたことで、「養蚕・織物」が**有効なテーマであるという確証**を得ることができた。

課題)

- ・ターゲットを絞り込んだ広報戦略とコンテンツの磨き上げ
- ・自由度の高い滞在環境づくり
- ・再来訪者と共に地場産業の継承につながる具体的な取り組み
- ・再来訪の目標頻度に合わせた戦略

ご清聴ありがとうございました。



観光庁「第2のふるさとづくりプロジェクト」実証事業 採択案件

「帰る旅」プロジェクトの2年目



2024年3月14日



帰る旅研究会共同代表
株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター客員研究員
北嶋緒里恵

一般社団法人 雪国観光圏とは

「雪国」という文化的背景を共にする新潟県魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、群馬県みなかみ町、長野県栄村の3県7市町村が連携した広域観光圏



観光庁
提出資料より

- 〈検証する仮説〉
- ①【場とコトの拡大】いつでも帰ることができる「場」を増やし、多様な「コト」とつなぐ仕組みづくり
 - ②【関係性のきっかけづくりと拡大】帰る旅ユーザー拡大のための「アウターマーケティング」施策
 - ③【人材確保・育成、運営体制の強化】地域内プレイヤーの理解を深め拡大する「インナーマーケティング」施策

〈取組概要〉

初年度に取り組んだ宿泊滞在拠点となる「場」づくり（「さかとケ」等）、関係性を生み育むサークル活動的な「コト（企画）」づくり、関係性クリエイター人材やCRM等に取り組み基盤を生むことができた。2年目は雪国観光圏エリア内でのプレイヤー・拠点・企画を複数に拡大、仕組み・体制の進化を行い、来訪による交流人口・関係人口の拡大、来訪頻度の増加、滞在の長期化、地域との多様な接点づくり、消費・事業費の獲得手法の確立を目指して実証実験を行う。

〈実施体制〉

（一社）雪国観光圏 / （株）リクルート ジャらんリサーチセンター / 雪国観光圏推進協議会、等

①第2・3のさかとケとなる
帰る旅宿泊滞在拠点の拡大

受入側は場（交流機会＋寝床）を提供、来訪者側はお手伝いワークを提供する、相互にGIVEの交換で関係性を育むスキームで複数拠点化を推進。初年度「さかとケ」1拠点→今期で新規4拠点到拡大（計5拠点）。宿泊滞在と関係性構築の場が規模が広がった。



②テーマ別「帰る旅スタディツアー」立ち上げ

テーマごとに地域とのつながりを育み「帰る旅」を体験するツアーを開催。関係性クリエイター一兼プロジェクトリーダー自身が取り組む企画に対してサポーターを募る。参加者は現場を実体験しながらアイデアソンや作業補助などを行うことでサポートし、継続的な関係性を育む。



③関係性クリエイター育成ワークショップ

地域内人材が参加。関係性クリエイターに必要なスキルを学びながら、帰る旅プロジェクトへの理解を深め、来年度の運営メンバー参加を促す。企業研修や新規事業開発メソッドを応用した研修内容にて実施（①関係性を築くコーチング②企画を生み実現するプロジェクトマネジメントの基礎）



取り組みの成果と課題（定性的なアウトプット）

- ①人員が不足しがちな単純作業を切り出し手伝う仕組みの整理できた。さらに拡大していくためにも拠点管理者同士の情報共有の場等を整備していきたい。
- ②参加後もオープンチャットでのコミュニケーションが続いている。現地参加の機会だけでなく遠隔や都内等で気軽に集まる機会など日常的な接点を創出していきたい。
- ③翌期の運営組織参加に関心がある候補者の理解も深まった。翌期メンバー候補とは今後も対話や目線合わせが必要。引き続き伴走していく。

取り組みの成果（定量的なアウトプット）

- ①全5拠点人泊数：TOTAL143人泊
- ②ツアー人泊数：TOTAL23人泊
- ③ワークショップ参加人数：19名
（行政・観光協会関連：10名、民間事業者：9名）

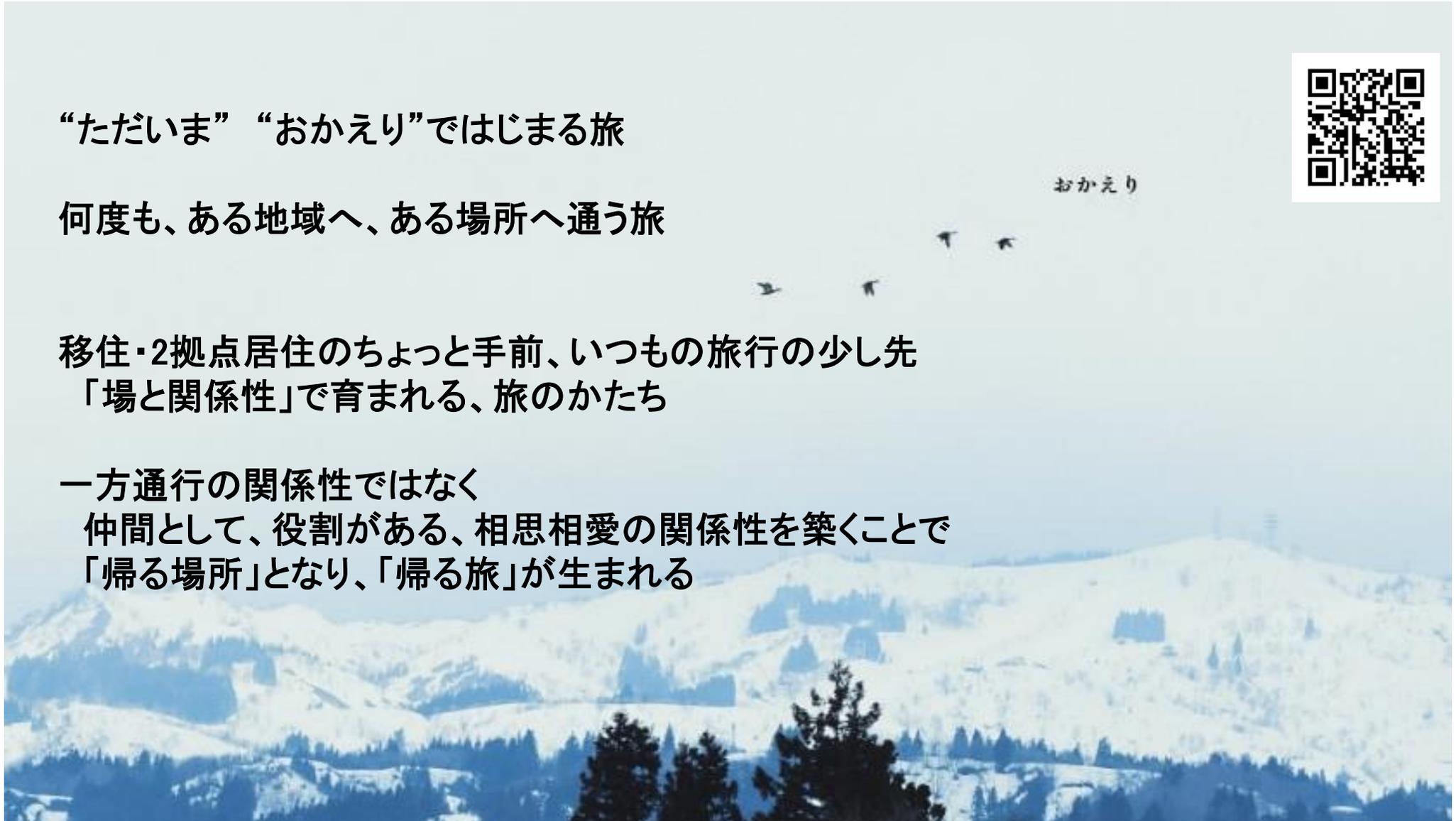
“ただいま” “おかえり”ではじまる旅

何度も、ある地域へ、ある場所へ通う旅

移住・2拠点居住のちょっと手前、いつもの旅行の少し先
「場と関係性」で育まれる、旅のかたち

一方通行の関係性ではなく
仲間として、役割がある、相思相愛の関係性を築くことで
「帰る場所」となり、「帰る旅」が生まれる

おかえり



定義：「帰る旅」とは

「行く旅」

お客さま

いらっしゃいませ

よそ者として接待

確かな価値

してもらう

もてなされる関係

「帰る旅」

仲間

おかえり

迎え入れられる

予測不可能な出会い

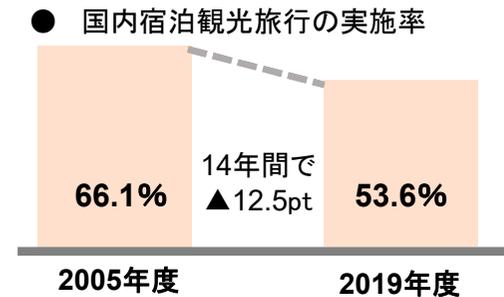
ちょっと手を貸す

共につくる関係

業界

旅行マーケットの現状課題 (国内宿泊旅行実施率の低迷傾向)

- コロナ禍前より年々低下傾向に
- 現状の観光政策のみで
マーケット全体のシュリンクは止められるか？
- **既存の従来型旅行需要以外に
新たな旅行需要を育てる必要があるのでは？**



出典:じゃらんリサーチセンター
「じゃらん宿泊旅行調査」

社会

ユーザーのライフスタイル変化 (コロナ禍で働き方・生き方の変化が加速)

- テレワークが増え、ワーケーションという概念が出現
WORK/LIFE/TRAVELの境界線のあいまい化が進行
- テレワーク実施者は、1stプレイスの自宅で仕事。2ndプレイス（職場・勤務先）
を失い、3rdプレイス的なよりどころの重要性に気づく人も増加
- 選択的週休3日制を導入する大手企業も増加
- **「自分はどうありたいか（働き方・生き方）」を自然と考える時代に**

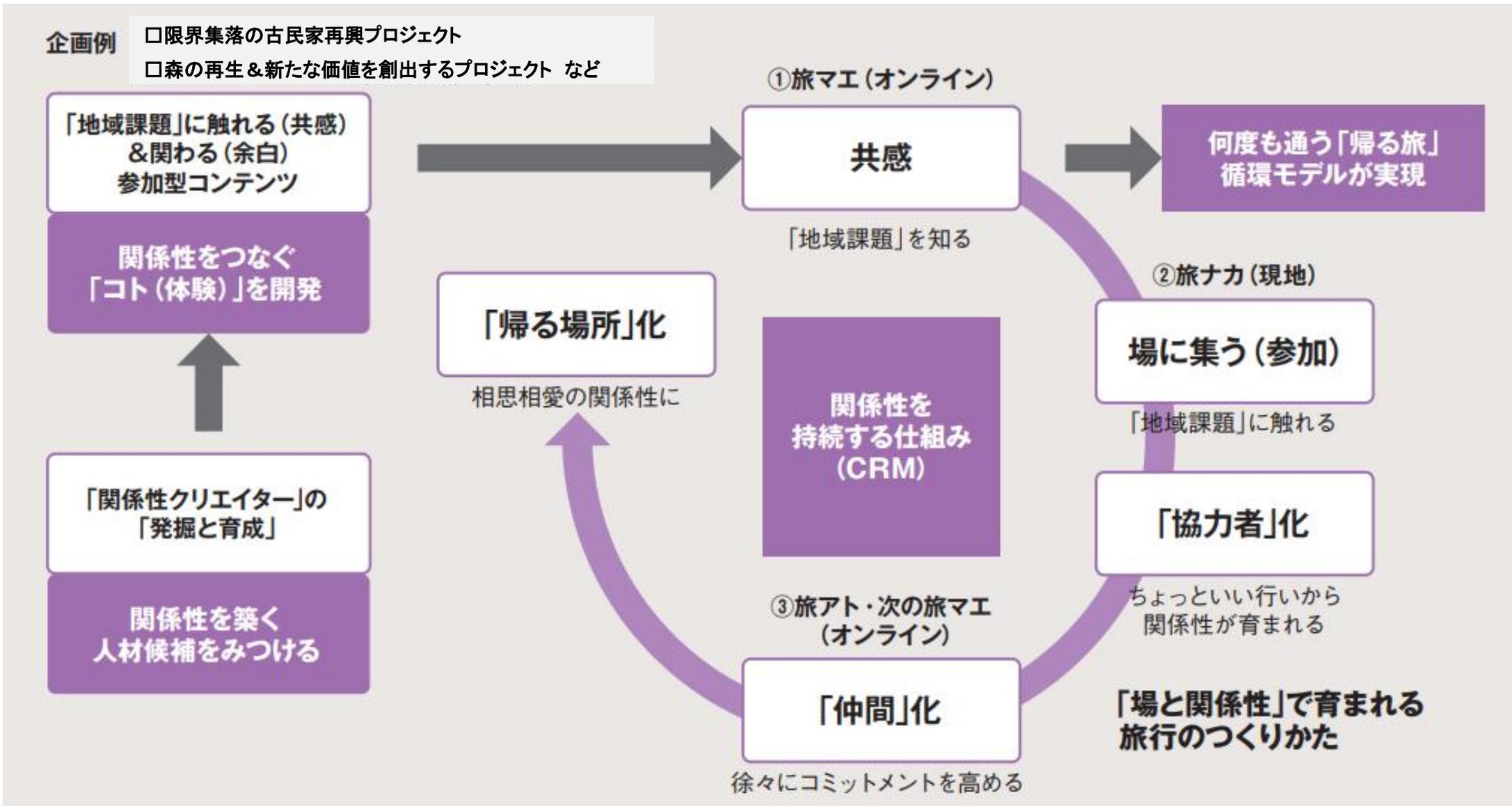
業界

新たなビジネスモデルの出現 （“暮らすように”旅する→ “暮らしながら”旅する需要も顕在化）

- 2018年、住宅宿泊事業法（民泊新法）が施行、「民泊」が生まれる
- 近年、多拠点居住の“アドレスホッパー”向けサービス
（定額住み放題サービス）が新ビジネスとして登場
- コロナ禍、都市型ホテルで暮らす“サービスアパートメント”プランが話題に
- **旅行業界内・周辺に、イノベーションと新たな潮流の兆し**

コロナ禍で緊急事態宣言で旅行が一時停止していたころより
雪国観光圏代表理事（帰る旅研究会共同代表）の井口氏と構想
業界・社会の変化で、新たな旅行需要開拓の必要性が見えてきている
地域側が主となり「3rdプレイス的な居場所」を旅先につくることに
新たな旅のかたち、ポテンシャルがあると考えました

仕組み：「帰る旅」は、「場と関係性」によって生まれ、持続的に循環する



帰る旅の「場と関係性」：お互いにGIVEしあう相互サポートで成り立つ



例：「さかとケ」のGIVE交換



受入側：「場」の提供



交流



来訪者：「ワーク」の提供

役割



関係性が生まれ「帰る場所」に

例：「秋山郷の見倉清水集落 道普請※」のGIVE交換

※みちぶしん：集落の生活環境維持のため水路や山道の掃除や整備を協働する行事



受入側：「場」の提供

交流



来訪者：「ワーク」の提供

役割



関係性が生まれ「帰る場所」に



ワーク×宿泊滞在拠点系

●「さかとケ」（南魚沼市）通年で稼働中

補足説明あり

●「第2、第3のさかとケプロジェクト」

宿のお手伝いをすることで宿泊できる交流滞在拠点を複数に拡大。

・12月、十日町市・湯沢町エリアで新たに4拠点立ち上げ

■松之山温泉（十日町市）：

①ゆもとケ hina（ひなの宿 ちとせ）、②ゆもとケ tama（酒の宿 玉城屋）

■十日町市：③いなりケ（福祉施設との連携） ■湯沢町：④にしなかケ

スタディツアー系

●「帰る旅スタディツアー」

補足説明あり

テーマごとに地域とのつながりを育み、「帰る旅」を体験するツアーを開催。
1泊2日で参加無料、集合場所までの交通費は自己負担。

・9/28木曜～29金曜 [第1弾]

「しなの荘」の女将さんと考える

『おひとりさまリトリート温泉宿』再生プロジェクトツアー（津南町）

・10/14土曜～15日曜 [第2弾]

「秋山郷」古民家のある日常 再興ワークショップツアー（津南町）



実施した施策情報はnote記事、Xに掲載

ワーク&アクティビティ系

※2023年の新規プロジェクト

●「帰る森」プロジェクト（南魚沼市）

・11/14・15

間伐作業や杉の間伐材を使ったアロマオイル作りのお手伝い企画

●「帰る農園ランチ」プロジェクト（南魚沼市）

・9/27・28（品種メルロー） ・10/4・5（品種カベルネソーヴィニヨン）

ユーザー認知拡大施策

●SNSを通じたプロジェクト内容の情報発信

note（記事系）、X（情報系）で広く告知。つながった仲間（参加者）とはLINEオープンチャットで継続的に交流。

●都内・新規ユーザー獲得イベント開催

ローカルコミュニティの活動拠点であるクルミドコーヒーに協力いただき、新規ユーザー獲得イベントを開催。

■9/20 @国分寺 胡桃堂喫茶店

クルミドコーヒー店主 影山知明氏×雪国観光圏 井口智裕氏

「行く旅」から「帰る旅」へ これからの旅のあり方

↳プロジェクト説明／トークセッション／交流会

■12/8 @谷中 HAGISO

むすんで、飲んで、語りあって。「帰る旅」体験交流会

↳プロジェクト説明／おにぎり体験（コトによる交流）／交流会

人材育成施策

●関係性クリエイター スキルアップ研修

プログラム：コーチング＋プロジェクトマネジメントの講習。帰る旅の軸となる関係性の深め方、プロジェクトへの理解を深めながら、来年度にやってみたい企画アイデアの計画・検討も行います。

・1/10-11（2日間とおし）※参加募集中（限定20名）

「帰る旅」をつくる関係性クリエイター育成ワークショップ



帰る旅宿泊滞在拠点の第1号「さかとケ」
「さかと」は、新潟県南魚沼市坂戸地区の地名から
「ケ」は、人と人を結ぶ拠り所、気軽に帰る「家」のような拠点（場）であり
ハレとケの「ケ（日常）」の意味をこめて名づけられました



2023年、さかとケがある「ryugon」は、第26回「人に優しい地域の宿づくり賞」（主催：全旅連）にてさかとケの取り組みが評価されの全旅連会長賞を受賞
観光を再構築するホテル取り組みが評価されグッドデザイン賞（地域共生型ホテル）を受賞

「さかとケ」は 場としごとを共用する、家系の拠点

料金

ハウスワーク5時間 素泊まりプラン

宿泊料免除

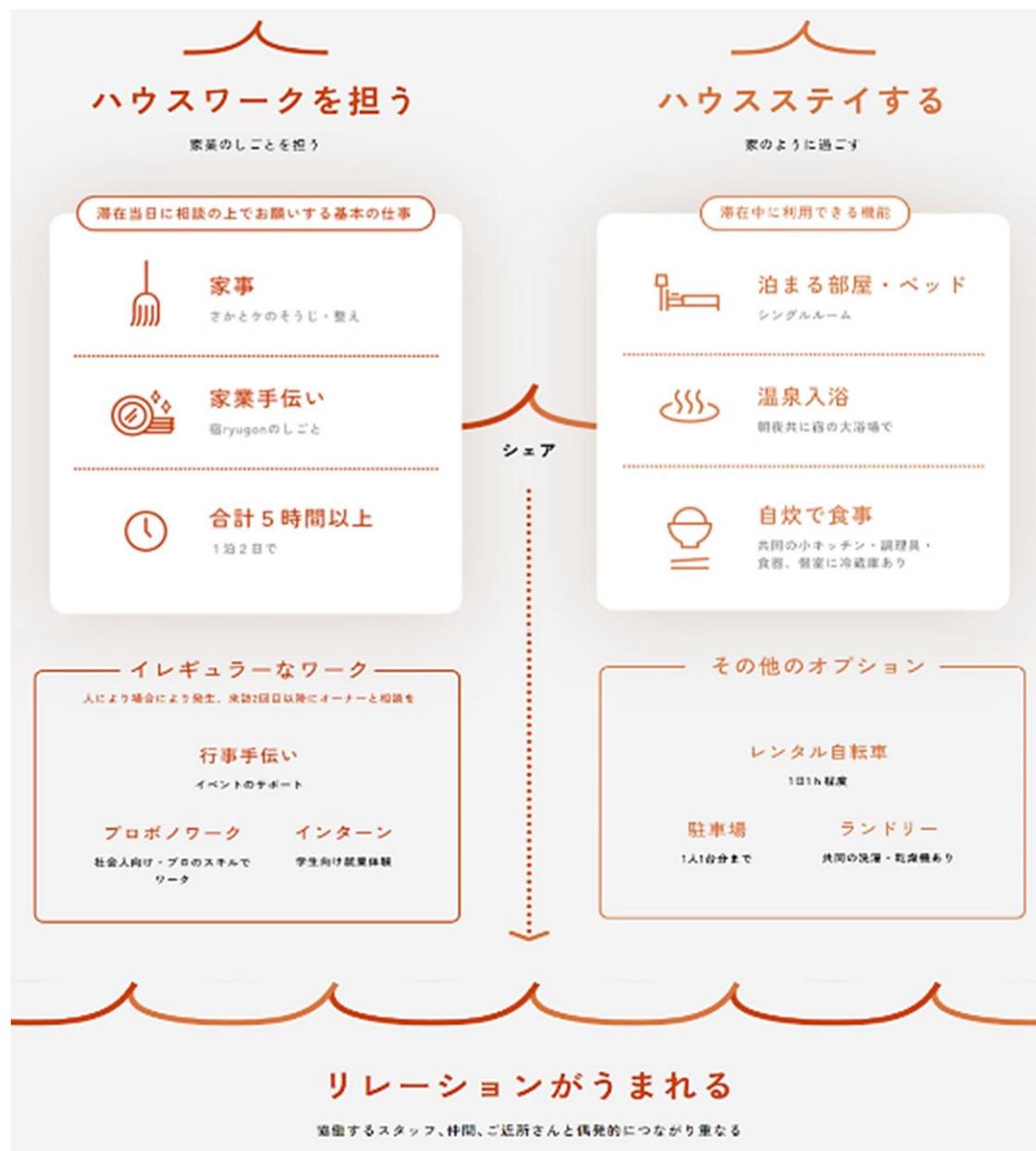
1泊2日あたり、最大6泊まで。

ハウスワークの時間帯は予約時に選択制。

仕事内容は当日相談となります。

① 17:00～22:00

② 7:30～12:30





家系な拠点、さかとケ。

ごめんなさい。さかとケは普通のホテルではありません。

祖父母や親戚の家に来た気分で、

ハウスワーク(家業のしごと)をお手伝いしながら

ハウスステイする「家系」な拠点です。

ハウスワークを通して、人や気づきに偶発的に出会い

旅先に「ただいま、おかえり」の関係性を見つけられますように。

さかとケのとりせつ

社名や肩書ではなく「素の自分」としてお互いに接することで「仲間」としての関係性を育む場づくりを目指しています

◎ 持ち込み歓迎

ハウスワーク以外の時間はフリー

自分のしごと

自分の趣味

自分の食材・衣類

場を活用した主催企画の提案

利他的な気持ちと行動

川・山もありゲレンデも近い環境で、自分の趣味に没頭できたり。駅前にあるスーパーで食材を調達して料理を振る舞ったり。オーナーと相談してイベントを主催してみたり。誰かのためになる変革の提案も大歓迎です。

△ 持ち込み不要

この場にそぐわないもの

肩書き

利己的な気持ちと行動

肩書きはいりません。個人としてお話ししましょう。またもちろん自分を犠牲にはしてほしくないですが、人と環境を敬う気持ちを忘れずにご持参ください。

2022年度 実施プロジェクト



さかとケ公式
サイト

● 「さかとケ」プロジェクト（場と仕事を共有する、家系の拠点）



関係性クリエイター兼
運営面プロジェクトリーダー

小野塚さん 萩野さん
(宿泊業)



オーナー
井口さん

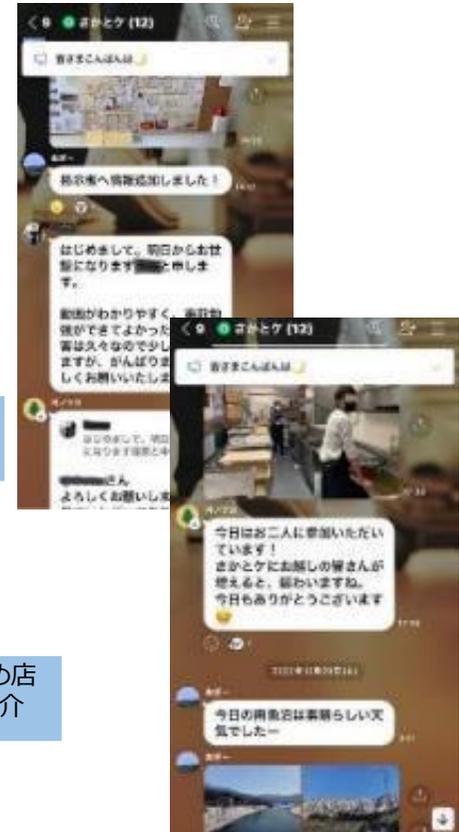
メンバーシップ登録+予約のスキームづくり



滞在する拠点の過ごし方の整備



LINEオープンチャットで
事前・事後のコミュニケーション



いつでもだれでも手伝えるしごとの提供方法



レクチャー動画

さかとケメンバーがつながる仕組みの整備



さかとケ文庫

自己紹介
チエキ

近隣のお薦め店
を各自が紹介

2023年度 実施プロジェクト



●「第2、第3のさかとケプロジェクト」

宿のお手伝い（2.5~5h）+自室清掃をすることで宿泊できる交流滞在拠点を複数に拡大。
12月、十日町市・湯沢町エリアで立ち上げ。帰る旅宿泊滞在拠点が全5拠点到。



「ゆもとケ hina」 松之山温泉

- ハウスワーク
「ひなの宿 ちとせ」のお手伝い+自室清掃
- 設備
部屋2室（個室）・共同ランドリー・温泉大浴場入浴（ちとせ内）等



「ゆもとケ tama」 松之山温泉

- ハウスワーク
「酒の宿 玉城屋」のお手伝い+自室清掃
- 設備
部屋2室（個室）・トイレ・洗濯機・電子レンジ付・温泉大浴場入浴（玉城屋内1F大浴場）・日本酒フリードリンクサービス（玉城屋内1F湯上り処）等



「いなりケ」 十日町

- ハウスワーク
「ワークセンターあんしん」のお手伝い+自室清掃
- 設備
ルームシェア1室（室内に寝室3室）・共有リビング・キッチン・トイレ・お風呂・洗濯機・近隣「みはらしcafe」をワークスペース利用可能 等



「にしなかケ」 越後湯沢

- ハウスワーク
「越後湯沢HATAGO井仙」のお手伝い+自室清掃
- 設備
部屋1室（個室、最大3名まで）・バス・トイレ・冷蔵庫・洗濯機・コンロ等あり・温泉大浴場入浴（井仙内） 等

● 帰る旅スタディツアー第1弾

「しなの荘」の女将さんと考える 『おひとりさまリトリート温泉宿』 再生プロジェクトツアー（津南町）



参加者7名は20～60代まで（応募18名）
関東を中心に高知・奈良からの参加も
帰った後もオープンチャットで関係性が続いており
旅行後、しなの荘をおすすめしたご友人が早速12月に宿予約したりと、
エバンジェリスト化した参加者も出現

<体験後コメント（抜粋）>

- 地域の魅力をたくさん教えてもらい、その土地のイメージが湧いた。宿の方、引率の方、参加されたみなさんの人柄があたたかく、初対面と思えないくらいリラックスした時間を過ごせた。皆で議論し合ったり、食事をしたりしながら、身も心も癒され、自分自身ともゆったりと向き合うことができたから。
- 地元の人と深く関わる事で、また来たいと思えるようになる事が、自分自身で体験出来たので良かった。観光地を見て終わりじゃなくて、関わり続けられる観光を、地元高知にも持ち帰りたと思います。
- 今回のイベントで考え抜いて、女将さんが宿泊プランとして磨き上げたものを、もう一度同じメンバーで体験して、さらにブラッシュアップしていくのも良いかと思いました。

●帰る旅スタディツアー第2弾

「秋山郷」古民家のある日常 再興ワークショップツアー (津南町)

参加者8名（応募16名）、19歳～50代まで参加、1日目は屋外ワークで秋山郷・見倉集落の古民家を家財道具の整理・清掃・ペンキ塗り。夜は地域の方々と懇親会を実施。

2日目は古民家の今後の活用方法についてアイデアソン。各テーブルには地域住民に参加。双方にとって刺激が大きかった様子。旅アトのオープンチャットも継続中。

<体験後コメント（抜粋）>

- 能動的に自分で考えて動いて経験を積む旅が非常に新鮮で面白かった
- 新たな旅のかたちを経験した気がして、非常に刺激になったため
- 今まで見なかった場所とツアー参加者との交流ができた
- いろんなタイプの方が前向きに地域のことに取組もうと集まる様子に、楽しさと学びを得ることが出来ました
- 地域の方と会話する時間をより多めに取ると、より濃い経験が得られる旅になるのではないか



2023年度 実施企画アクション数（人泊数・日帰り企画の参加人数）

事業全体	初回 (人泊)	再来訪 (人泊)	合計 (人泊)	再来訪率
帰る旅スタディツアー企画（全3企画）	18	5	23	21.7%
帰る旅宿泊滞在拠点（全5拠点）	115	28	143	19.6%
合計	133	33	166	19.9%

現地日帰りイベント	初回 (名)	再来訪 (名)	合計 (名)	再来訪率
「帰る森」プロジェクト	5	2	7	28.6%
南魚沼ツアー	3	0	3	0.0%
合計	8	2	10	20.0%

帰る旅スタディツアー企画	初回 (人泊)	再来訪 (人泊)	合計 (人泊)	再来訪率
「しなの荘」ツアー（津南町） 1泊2日	6	1	7	14.3%
秋山郷・古民家ツアー（津南町） 1泊2日	6	2	8	25.0%
「むこ投げ」お祭りサポーター企画（十日町市松之山温泉） 2泊3日	6	2	8	25.0%
合計	18	5	23	21.7%

都内イベント	初回 (名)	再来訪 (名)	合計 (名)	再来訪率
9/20 @国分寺 胡桃堂喫茶店	27	3	30	10.0%
12/8 @谷中 HAGISO	12	11	23	47.8%
合計	39	14	53	26.4%

帰る旅宿泊滞在拠点（②～⑤は12月中開業）	初回 (人泊)	再来訪 (人泊)	合計 (人泊)	再来訪率
①さかとケ（古民家ホテル ryugon）	103	24	127	18.9%
②にしなかケ（HATAGO井仙）	2	2	4	50.0%
③ゆもとケhina（ひなの宿 ちとせ）	2	2	4	50.0%
④ゆもとケtama（酒の宿 玉城屋）	4	0	4	0.0%
⑤いなりケ（ワークセンターあんしん）	4	0	4	0.0%
合計	115	28	143	19.6%

※集計期間は2023年7月16日～2024年1月31日

※再来訪は「帰る旅企画内での再来訪」をカウント

組織：「帰る旅研究会」の仲間たち（運営組織メンバー）



一般社団法人 雪国観光圏+じゃらんリサーチセンターが協働で立ち上げ
全員が自発的に手挙げ制で集まったメンバーで構成
新しい旅の思想「帰る旅」をカタチにする「運動」に共感し参加している仲間の集まり

運営メンバーの
顔触れ

2022年1月結成（初期メンバー9名）

2023年2月加入（第2期メンバー+10名=合計19名）



共同代表
(井口さん)



共同代表
(北嶋)



湯沢



南魚沼



湯沢



妙高

+



津南



津南



津南



十日町



湯沢

+



東京



東京



東京



東京



東京

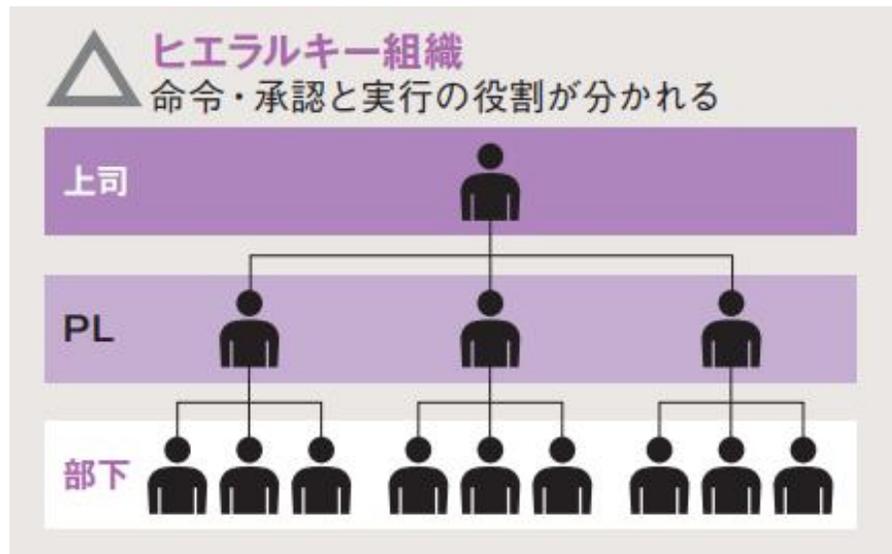
+さらに2023年12月より
松之山の宿経営者2名
十日町の福祉・宿泊業1名
(帰る旅宿泊滞在拠点として立ち上げ)

組織：帰る旅研究会の組織運営方針の特徴



「関係性クリエイター=プロジェクトリーダー（PL）」として各企画を立ち上げ・運営しながら
メンバー間で「相互サポート」する関係性で成り立っている
「自分自身が帰る場所・帰りたい場所」をつくるために
全員がリーダーで全員がサポーター、意志ある「個」が集まった組織

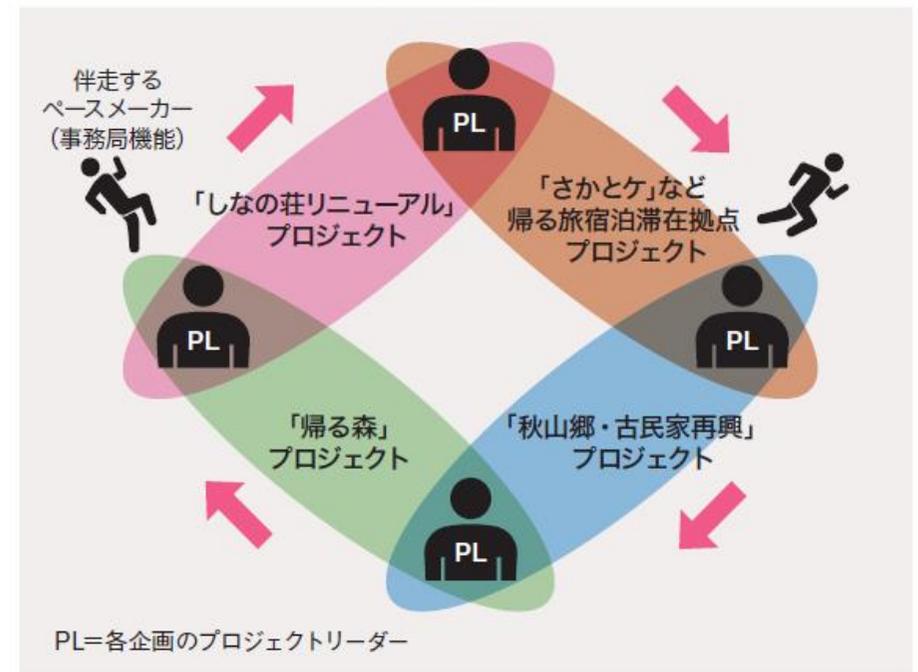
一般的な組織



例：上司が設定したミッションに沿って
部下は動き、ミッション実現により評価される組織

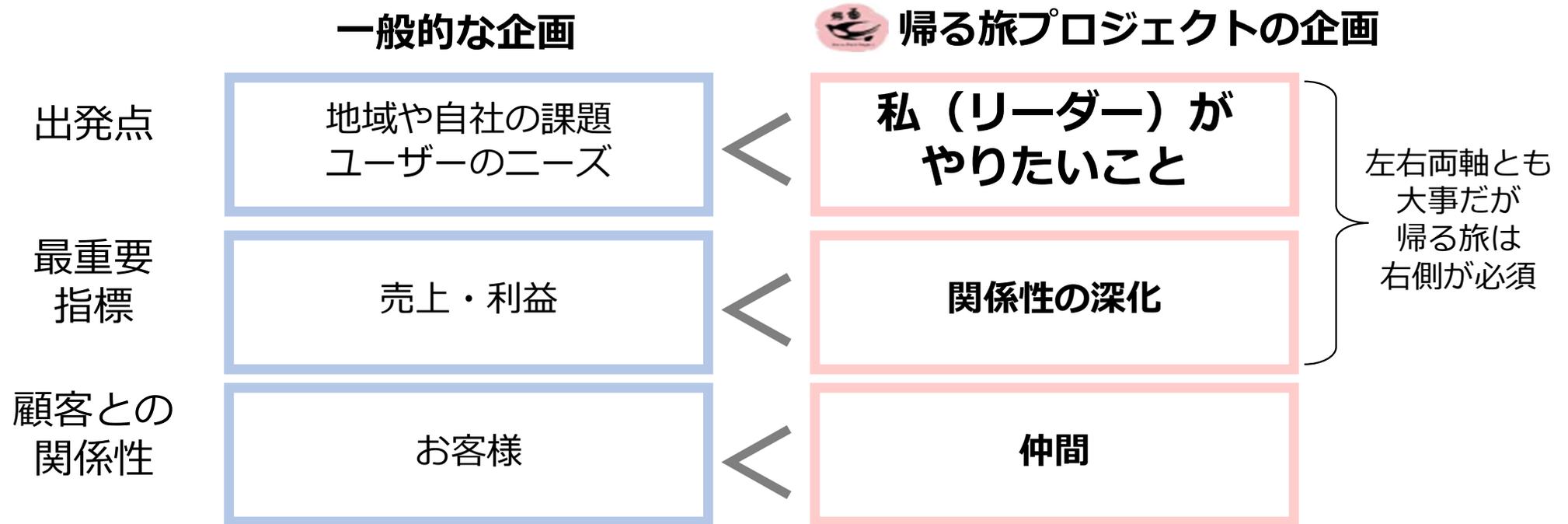


帰る旅研究会が目指す組織





「帰る場所」は何度も通うための「場と関係性」が必要
ユーザー側だけでなく、運営メンバー側の持続性も重要



運営メンバーのモチベーション（自身のwillや信念）とひもづく企画が
ベースとなることで「継続性」に



● 関係性クリエイター スキルアップ研修

企業研修や新規事業開発メソッドを応用した研修内容を実施。

1/10(水) 11(木)

研修(2日間)

@南魚沼市事業創発拠点 MUSUBI-BA定員20名
(南魚沼市六日町91番地2)

「帰る旅」をつくる
関係性クリエイター
育成ワークショップ

講師：松岡未季 先生

株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング
シニア・コンサルタント

MBTI認定ユーザー、DiSC認定資格者、
Ken Blanchard Companies 公認トレーナー(SLII®, SLII® Experience)、
CTIコーチング応用課程修了、日本プロカウンセリング協会認定心理カウンセラー



2日間のプログラム

① 関係性を築くコーチング

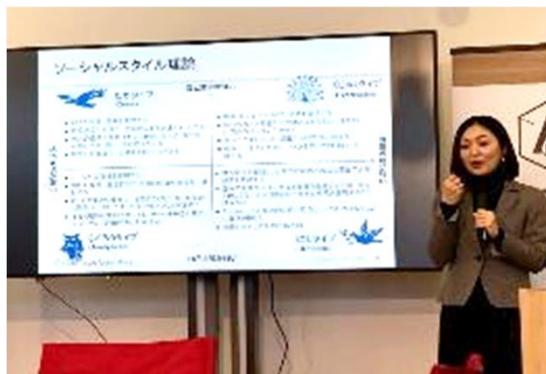
来訪者と信頼関係を生む共感力を高め、
積極的傾聴スキルを学ぶ

② 企画を生み実現する

プロジェクトマネージメントの基礎
設計・計画段階でタスクを洗い出し、役割分担を行う。
ステークホルダーを巻き込む演習など。

● 参加人数：19名

(行政・観光協会関連：10名、民間事業者：9名)

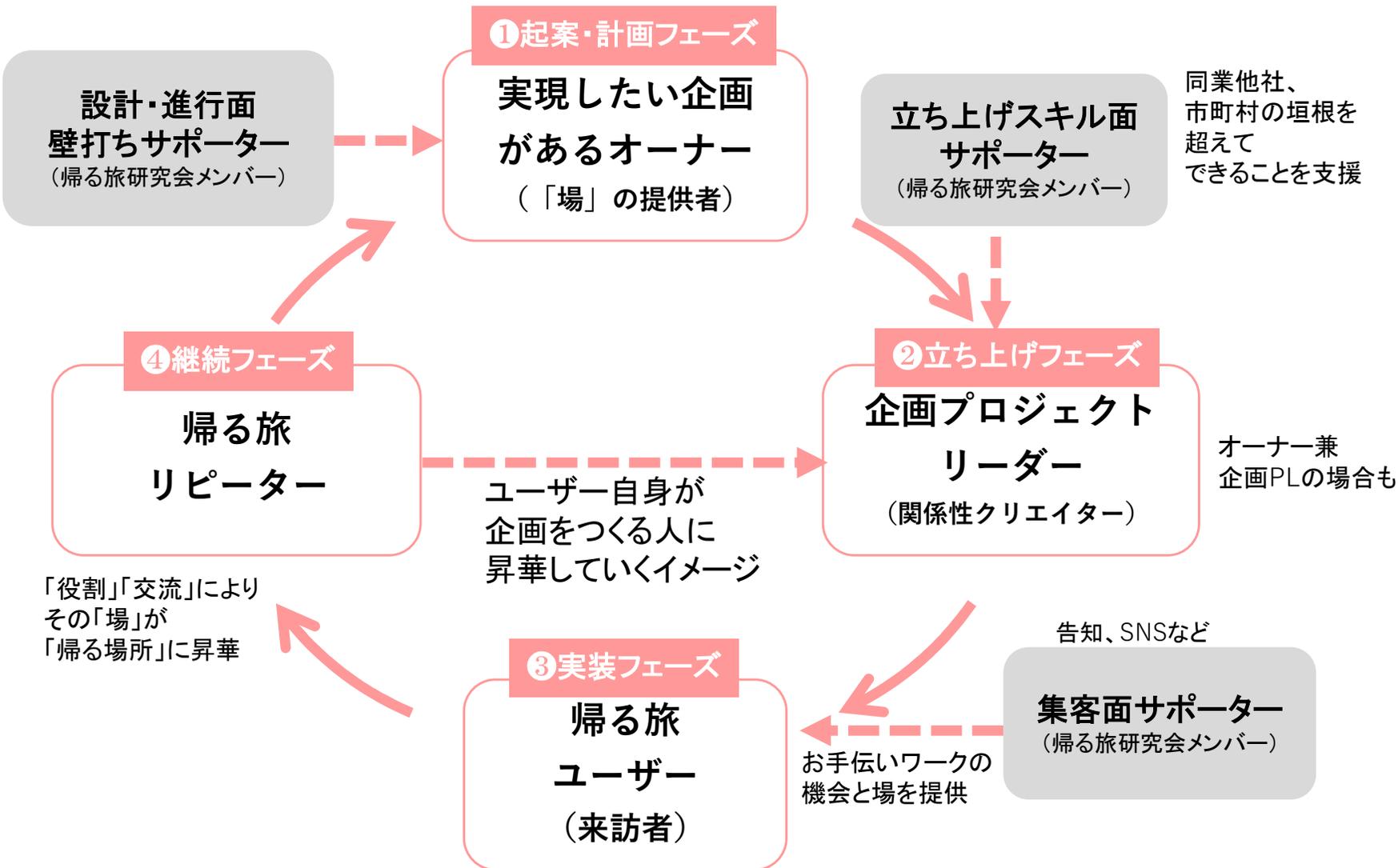


「帰る旅」がめざす「場と関係性」の循環は、相互支援がベース



- 「オーナー・企画PL」「帰る旅研究会メンバー」「ユーザー」、それぞれの「関係性」が重要（ユーザー×受入組織だけでなく）
- この相互支援の「関係性」があれば、「場」が広がり続ける持続可能なモデルを目指している

例：「さかとケ」のGIVE交換



誰かがつくった旅ではなく
「帰る旅」は自分でつくる旅、みんなでつくる旅



「帰る旅」を広める深めることに関心がある方、
帰る旅プロジェクト「さかとケ」等のプログラムを
視察・体験してみたい方はぜひご連絡ください

ご清聴ありがとうございました

帰る旅研究会共同代表

株式会社 リクルート ジャらんリサーチセンター 客員研究員

北嶋緒里恵

orimorin@r.recruit.co.jp



帰る旅公式サイト

【ご注意：本資料の転載・複製での利用について】

- 本資料は、株式会社リクルート（ジャらんリサーチセンター）の著作物であり、著作権法に基づき保護されています。
 - 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。
- 事前に当社までご連絡ください。使用用途によって転載・複製をご遠慮頂く場合もございます、予めご了承ください。

※問い合わせ先

[メディア・報道機関の皆様]株式会社リクルート 広報担当 <https://www.recruit.co.jp/support/form/>

[その他企業・自治体・一般の皆様]ジャらんリサーチセンター事務局 E-mail : jalan_rc@r.recruit.co.jp

- 本資料は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料を利用する場合にはお客様の判断で利用してください。また、資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。



〈検証する仮説〉

地域課題解決を通じた学び直しをテーマにした「しんせき学び旅」で来訪する際に、京阪神から高速バスのサブスクプランがあること、また町内の各課題にアクセスするためのコミュニティバスのサブスクプランまで一気通貫での利用環境が整うことで再訪率が高まるか実証する。

〈取組概要〉

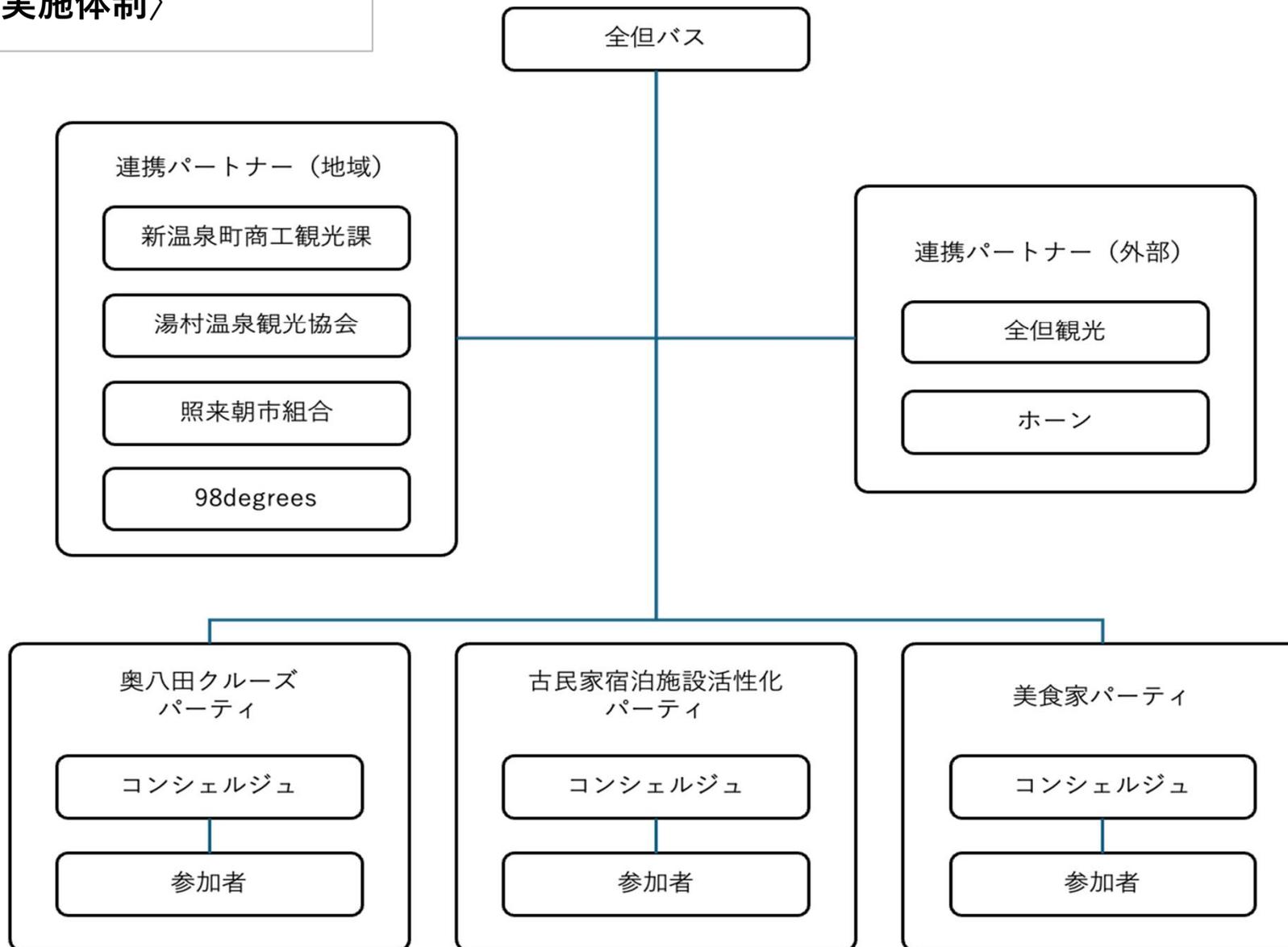
地域課題を新資源として整理・提示する「しんせき学び旅（ローカルクエスト）」のプランを創出し、地域の方々と一緒に課題解決に取り組むとともに、京阪神からの新温泉町へのアクセスや町内の地域課題までのアクセスを容易にするサブスクプラン「新温泉町たんけんパス」販売の実証に取組、再訪の効果を検証していく。



- 【湯村温泉】
- ・観光客減少
 - ・利便性の悪さ
 - ・飲食業の衰退
 - ・人口流出

- 【上山高原】
- ・環境保全
 - ・人手不足
 - ・獣害問題

〈実施体制〉



①高速バス等乗り放題サブスクプラン

「新温泉町たんけんパス」の販売



新温泉町たんけんパスの販売実績

のべ 63人

<成果と課題>

地方部への移動の大きな障壁の1つである移動に関する負担について、高速バス・コミュニティバスの1ヶ月のサブスクプランを販売することにより、一定の移動しやすい環境づくりには寄与できた。ただ、複数利用もあるもの多くの利用者は、当初想定していた月2回程度の訪問までには至らず、加えて冬の積雪時の利用増も見据えていたが、暖冬による雪不足により自家用車等での移動できる状況なども相まって、目標利用数には届かなかった。

今後は、サブスクプランの利用期間・料金設定などの改善やコミュニティバスの観光利用取り込み対策などを検討していきたい。

②ローカルクエスト事業（しんせき学び旅事業）



📍 NPO上山高原エコミュージアムのプログラムに参加して、自然再生について学ぼう！（エコフェスタ）

初級

2023年10月15日



📍 NPO上山高原エコミュージアムのプログラムに参加して、自然再生について学ぼう！（扇ノ山紅葉登山）

初級

2023年10月21日



📍 ひょうごフィールドパビリオン向けにプログラムの磨き上げのお手伝い！

初級

2023年10月22日



📍 <日程調整中> 地域資源を生かしてサステナブル商品を提案しよう！

中級

2023年12月1日 - 2024年1月31日



📍 <STEP1> 営農組合「前農産」さんをまめまめしく救え！プチ移住でリアル農家を体験

上級

2023年11月3日 - 2023年11月5日



📍 <STEP2> 営農組合「前農産」さんをまめまめしく救え！プチ移住でリアル農家を体験

上級

2023年11月18日 - 2023年11月26日

②ローカルクエスト事業（しんせき学び旅事業）



ローカルクエスト参加実績

のべ 255人

<成果と課題>

町内で3つのパーティに分け、それぞれの地域ごとにクエストを設定した。参加者の中で今後も関わって頂けそうなファンが作れたことは非常に大きな収穫と感じている。

地域住人も外部人材と関わることで自分たちが当たり前にしてきたことへの新しい気づきがあり、外部人材も日常では得られない人のつながり、知的な探索に満足を感じることができた。

③地域住人・コンシェルジュ向けワークショップ事業



コンシェルジュ参加実績

13人

<成果と課題>

地域課題を通じて再訪の繋がりを生み出すにあたり、地域住人の受け入れにおいて重要なポイントを考え、地域課題を抱える地域住民向けや地域と来訪者を繋ぐコンシェルジュ向けのワークショップを開催した。

まとめ

来訪数 (合計)	再来訪数 (合計)	再来訪率	2回 来訪	3回 来訪	4回 来訪	5回 来訪	6回 来訪 以上
276	22	8%	7	4	5	1	5

成果と課題

- ・地方における移動課題について、サブスクプランの設定により一定の移動しやすい環境づくりはできたが、今後プランの設定期間・料金・コミュニティバスの観光活用などの検討を行いたい
- ・ローカルクエスト事業では、地域住民と外部人材の交流により新たな発見や知的な探索に満足を感じていただけたなど効果があった。しかし運営では、来訪者の日程調整が揃わず、個別での対応も発生し、現地側での負担が大きくなってしまった

次年度に向けて



新温泉町内のバスターミナルに、3月23日にオープン予定。

次年度に向けて



ご清聴ありがとうございました！